

※新聞記事のレイアウトを変更しております。

新聞掲載記事より

【質問】医療機関で受けた検査の結果や処方された薬の内容を、他の医療機関でも知ることができると聞きました。どうすればいいのでしょうか。
(65歳、会社員)

あじさいネット

【回答】「痛い思いをする検査は何度も受けたくない」「前の病院の薬と同じでは?」「飲み合わせは大丈夫かな?」。そんなことを思ったことはありませんか。医師も同じことを考えています。他の医療機関での診療情報を知ることが大切です。

現在は、お薬手帳を利用することで薬の重複や副作用の予防ができます。また、多くの医療機関は血液検査の結果を患者さんに渡しています。この結果を医療機関に見せることで、同じ検



内34病院の診療内容を、334の医療関連機関が患者さんの同意を得て、閲

診療情報 互いに利用 地域を一つの病院に

い薬や飲み合わせが悪い薬の重複も避けることができます。

ICTを用いた医療連携で、検査や薬の重複を避けることができ、患者さんは、安心安全な医療を受けることができます。医療の無駄を省くこと

地域を一つの病院に

査の重複もなくなることができ、でも、お薬手帳や検査結果がもし手元になかったら、

長崎県では、2004年から情報通信技術(ICT)を活用した医療連携ネットワークの構築に努めてきました。それが、あじさいネットです。

長崎県では、2004年から情報通信技術(ICT)を活用した医療連携ネットワークの構築に努めてきました。それが、あじさいネットです。県あじさいネットでは、県

覧することができます。患者さんが「病気の説明を受けたけど、いまひとつ話が理解できなかった」「もらった薬は何だったかな」という時、かかりつけの先生に「〇〇病院の診療状況を見てください」と申し出ることで、かかりつけ医が診療内容を一緒に見て説明をしてくれます。処方した

にもつながります。かかりつけ医にとっては、大きな病院の最先端の医療を知ることができ、知識の習得につながります。当初は大きな病院の情報を得るだけでしたが、最近では、診療所の検査結果と薬の情報を病医院、薬局、訪問看護で共有できるシステムもでき、地域全体で活用

できるようになりつつあります。政府もこのようなICTを使って医療、健康情報を共有し活用するサービスの推進に力を入れています。ただし、診療情報はその利用を間違えると患者さんが不利益を被るものであるため、患者と医療関係者の理解と信頼、さらには、決して医療関係者以外に情報漏えいしないシステムの構築が重要です。

地域の医療機関をICTでつなぎ、地域を一つの病院にして、安心安全な医療を提供できる体制をつくる。それが私たちの願いです。

医療機関にかかる時は「〇〇病院に通院しています。診療状況を見てください」と遠慮なく申し出てください。(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎県市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。